



介護事業部 グループホームさざなみ松屋町

にしざわ きょうへい 西澤 恭平



2018年4月、新卒採用で有限会社さざなみに入社した西澤恭平。介護事業部に所属し、グループホームさざなみ松屋町にて日々奮闘する西澤に、仕事に対する思いや今後の目標を聞いた。

— さざなみとの出会い 母を助けたくて

もともと目に障害があり、母には苦勞をかけてきたという。そんな母も年齢を重ね、ヘルパーの力を借りるようになってきた。これからは自分が母を支え、今までの恩返しをしたい。そう思っていたとき、専門学校での就職説明会で出会ったのがさざなみだった。話を聞くうちに少しずつ、介護という仕事に興味を持ち、「働きながら知識と技術を身につければ、母の助けになれるかもしれない」と思うようになる。昔から体を動かすのも好きだから、きつと自分に向いていると思った。こうして西澤は、縁あってさざなみの一員となる。

— 「辞めたい」と思ったとき、 背中を押してくれた言葉

しかし、そこからの道のりは決して平坦なものではなかった。社会人になったばかりで、当然何もかもが未経験。先輩社員の指導やフォローがあるとはいえ、右も左もわからない状態で入居者の方の介助をするのは想像以上に大変で、特に排泄介助には、慣れるまでに時間がかかった。心身ともに疲れ果て、毎日のように「辞めたい」と思っていたという。



毎日笑顔を心がけています！

つらい気持ちを聞いてほしくて連絡したのは、学生時代にアルバイトしていたカレー屋の店長だった。「辞めたいなんて言わないで、もうちょっと頑張ってみたら？ いつでも話聞くから」。

兄のような存在である店長の言葉に励まされ、背中を押され、西澤は顔を上げることができた。店長に言われたら、がんばるしかない。そこからは、毎日の業務により一層かむしやりに取り組んだ。職場の先輩も親身になって指導してくれ、少しずつではあるが着実に、自信もついてきた。的確でわかりやすく仕事を教えてもらえることが、心からありがたかった。

カレー屋は、職場からの帰り道にある。ときどき店を訪れると、店長が決まって「まだがんばってる？何かあったら、ごはん食べながら話聞くよ」と、声をかけてくれるという。どんなに疲れていても、この店長に会うと前向きになれるのだ。



節分を利用者様と楽しみました

— 信頼できる 仲間たちとともに

はじめて夜勤に入った日のことは、今でも強く印象に残っている。心細さと緊張によりミスもしてしまったが、同じく夜勤に入っていた先輩がフォローしてくれ、なんとか朝を迎えることができた。それまでにないほど大きな達成感を感じながら浴びた朝日はとても眩しく、暖かった。

この仕事は天職だと、いつしか西

澤は考えるようになっていた。さざなみの魅力は、スタッフ同士の絆の強さである。ひとりが困っていればみんなでサポートしたり、悩みがあれば相談に乗り合ったり、ともに働く仲間たちを、いつでも全員が気にかけて支え合っている。一人ひとりの個性は強いが、それ以上に団結力がある職場だ。だからこそ、決して楽とはいえない業務にも、日々前向きに取り組めるのだという。

— さざなみなる高みを目指して

さまざまな試練を乗り越えてきた西澤には、今後の目標がある。それは、「利用者も職員も、笑顔で楽しく



鬼の格好で大活躍！

過ごせる職場にする」ということだ。派手な服装から「ギャング」というあだ名で呼ばれる西澤だが、その内面はとても優しく、あたたかい。外見の怖さから子どもに泣かれてしまうこともあるが、保育士を志した時期もあり、子どもと遊ぶのも大好きだ。人とかかわり、体を動かすこの仕事はまさに天職。今後も経験を重ねて資格を取得するなど、利用者や職員の笑顔のために力を尽くしていきたいと思っている。自分の努力の積み重ねが会社の成長につながり、少しでも社会に貢献できれば、それに勝る喜びはない。

若さみない西澤の活躍は、まだまだ始まったばかりだ。

職場紹介

～グループホームさざなみ大池橋～

職員とともに日々入居者様に向き合っている門田さん。
施設の魅力や今後の目標をお伺いしました!

職場の雰囲気

最近、職員がより明るい雰囲気になったので、入居者様ももっと明るくなったような気がしています。

2か月前は、23人だった職員が今では35～36人まで増



えたので、業務の負担も軽くなり、一人ひとりが入居者様と向き合える時間も増えました。

取り組み

誰にでも愛情を持って接してもらうように職員には伝えてありますし、私も日々心がけています。

人には得手不得手があるので、「それぞれの得手を伸ばし、不得手は他の誰かがフォローすれば良い」というのが私のモットーです。

周囲で助け合える環境にできれば、職員の間が気持ちよく仕事ができると思っています。

スタッフとの思い出

料理上手なインドネシア人の子が、祖国の料理を作ってくれたことは思い出に残っています。

肉団子スープのような料理を作ってくれたのですが、本場のインドネシア料理を食べるといって貴重な経験になりました。

介護事業部
管理者

かどた ひろみ
門田 博美さん



入居者との思い出のエピソード

2019年の12月1日に開催された大阪市民マラソンを、ほぼ全員で沿道に出て応援したことは、忘れられない思い出になりました。

職員も入居者様も時間を忘れるほど、熱狂的に声援を送っていました。普段おとなしい人が、道路の脇まで行って、手を叩いて「頑張れ!」と必死に応援している姿を見たときは、今まで知らなかった意外な一面を知ることができたようで嬉しく思いました。



▲マラソン応援



◀たこ焼きを焼きました

今後の目標

グループホームさざなみ大池橋は、ほぼ満床の状態です。十分賑わっていますが、他の施設も含めて、今まで以上にこの地域全体を活性化したいと考えています。

私の仕事は、入居者様に余生を楽しんでいただくお手伝いだと思います。

職員が楽しくなかったら、入居者様も楽しくなくなってしまうので、職員が色々な行事に参加をして、和気あいあいと明るい施設を目指しています。

さざなみ注目の若手!

～エース社員紹介～

今回は、グループホームさざなみ京都南の三山さんを紹介いたします!



フロアリーダー

みやま せいや
三山 誠也さん

①入社年月

2019年11月入社

②入社動機や経緯

入社するまでは、派遣として介護業界で働いていました。「将来、介護の道で頑張っていこう」と心に決め、正社員となりました。自身がやりたい仕事を悩んでいるときに親に勧められ介護の道を選び、派遣の時期も含め介護職に就き3年ほどになります。

③入社して楽しかったことは?

管理者の大山さんをはじめ先輩スタッフと距離が近く、皆で話し合いながらイベントなどを企画することが楽しく感じます。これまで、クリスマス会や節分を企画・運営しました。また、以前は1人の介護士としての仕事のみでしたが、現在はフロアリーダーも任せていただき介護施設そのものの運営なども考えられるようになったことも、嬉しく思います。

④入社してつらかったことは?

経験者として入社したため、期待されるレベルも高く、それに応えられるよう一生懸命頑張りました。できることを1つずつ、全力で取り組み乗り越えました。

⑤仕事のやりがいは?

「ありがとう」の言葉です。高齢者の方は、食事を配膳したとき、トイレのお手伝いをしたときなど、感謝の言葉を頻繁にかけてくださり、嬉しく感じます。また、スタッフ間で協力しながら行事を成功させたときもやりがいを感じています。

⑥今後の目標

国家資格である介護福祉士の資格を取得することです。現在、勉強に励んでいるところです。

⑦さざなみの皆様や社内報をご覧になる皆様にメッセージ

1つずつ着実にできることを増やし頑張っていくので、今後ともよろしくお願いいたします。



大山さんに三山さんのことを伺いました!



グループホームさざなみ京都南
管理者

おおやま あきこ
大山 明子さん

▼第一印象は?

爽やかな青年という印象でした。一緒に働くようになってからもその印象は変わっていません。面接を担当したのですが、「正社員としてしっかり働きたい」という強い思いを感じ、すぐに採用を決めました。期待に応える仕事ぶり、異例の早さでフロアリーダーに就任しています。

▼良いところを教えてください

常に前向きで笑顔で対応してくれるところです。まだ入社したばかりで周囲に遠慮してしまってもおかしくないと思うのですが、自分の意思をしっかりと言うことができている。それから社員が口を揃えて言っていることなのですが、目立った仕事よりも裏方の仕事を率先してやってくれるのが素晴らしいところだと思います。みんなが仕事をしやすいようにいつも片付けてくれていて、感謝しています。入居者様にも非常に人気で、三山くんがいると「お兄ちゃん!」とみなさんから引っ張りだこです。

▼三山さんにメッセージ

4月からの実務者研修でも、今まで通り自分の意思を強く持ちながら頑張ってください。勉強に対しても前向きなので、しっかりやってくれると期待しています!